

「第61回日本児童青年精神医学会総会」の開催を心よりお喜びします。

日本児童青年精神医学会の皆様は、1960年の設立以来、医学・医療をはじめ、学校教育、児童福祉、司法など幅広い分野から、子どもの心の健康に関する学術研究を展開されています。これまでの真摯な取り組みに、改めて敬意と感謝の意を表します。

大規模な自然災害や事故等が発生したとき、私たちは人々の「こころのケア」に留意します。いまや当たり前になったその視点は、25年前の阪神・淡路大震災からの創造的復興の過程で生まれた成果の一つです。

兵庫県では、平成16年に全国初の拠点施設である「兵庫県こころのケアセンター」を開設。子どもはもとより、あらゆる世代を対象に、トラウマやPTSDに関する実践的研究、相談・診療、人材養成、ネットワークづくりなどを多角的に実践しています。また、平成26年には大規模災害時の精神科医療、精神保健活動の支援チーム「ひょうごDPAT」を創設し、さらなる充実を図っています。

一方、児童虐待やDVは後を絶たず、インターネットの匿名性を利用した悪質ないじめなど、子どもたちの心の穏やかな成長を妨げる問題は山積しています。さらにコロナ禍によって、学校の臨時休業のほか、再開後も学校行事の中止や変更を余儀なくされるなど、子どもたちは環境の大きな変化にさらされています。外出自粛により、家庭内でゲームやスマートフォンを利用する時間が増え、身体や精神に悪影響が及ぶ懸念もあります。

県では、コロナ禍で不安や恐れなどを抱える子どもたちのこころのケアに対応するため、従来の24時間ホットライン等に加え、若者に身近なコミュニケーションツールであるLINEを活用した悩み相談に取り組んでいます。また、インターネットで自殺関連用語を検索した場合に、自動的に相談窓口を表示する仕組みを導入するなど、ICTを活用した相談体制の充実を図っています。

本総会では、「子どもたちの『生きる』をまもり、『育ち』を支える」をテーマに、児童青年期の精神医学に携わる様々な職種の皆様がWebを通じて集われます。ここから新たな知見や交流が生まれ、支援の輪が広がっていくことを願っています。ともに力を合わせ、次代を担う子どもたちの心の健康を育んでいきましょう。

日本児童青年精神医学会のますますのご発展と、関係の皆様のご健勝でのご活躍を心からお祈りします。

兵庫県知事 井戸敏三